



窯で材料の木を煮ます



むかれた皮が和紙となります



はざ木につるして天日で乾燥させます

田立和紙の技術を保存しています

「田立和紙の家」

田立和紙は江戸中期にはすでに文献に載るほどに発展していた田立の産業の1つでした。その伝統を受け継ぐ田立和紙の家で、年に1度行われている和紙の材料の楮と三椏の皮むきを見学させていただきました。今回は窯で楮と三椏を煮た後、皮をむき、干すまでの作業を行うということ。「年に1度のお祭りだよ」とおっしゃる有志の皆さんは楽し気に話をしながらも、滞ることなく作業を進めていきます。お話の間から、昔から引き継がれてきた伝統を絶やさないという心意気がうかがえました。

寒い時期に漉かれた紙は質が良いとのことで、田立和紙の家では寒さの厳しい3月末頃まで紙漉きを行います。また、観光シーズンの休日には妻籠宿内でも紙漉きの技を披露しています。(お問い合わせ: ☎0573-75-4910)

今月の主な内容

- 役場からのお知らせ ————— 2p~ 3p
- ケーブルテレビ整備事業のお知らせ — 4p
- すこやか南木曾っ子 その1
- 夜型生活の子どもが増えています! — 6p~ 7p
- 生活習慣病を予防するためにできること — 8p
- 公民館報 ————— 10p~ 13p

人の動き

人口/5,173人 男/2,448人 女/2,725人
世帯/1,938戸

(2月1日現在)